

# COIL 型授業実践紹介

## Vol. 9

Nanzan University  
Course : 演習Ⅱ  
Teacher : 宮原 佳昭  
Faculty : 外国語学部 アジア学科

**Year・Quarter** 2020 年度・第 3 クォーター

**Partner Institution** Queens College, City University of New York

**Course Name** Sources of Insecurity in Asia

**Teacher** Muhammad Kabir

**COIL Category** Academic COIL

**Enrollment** Nanzan 15, Queens College 26

**Language** English

**Tech Tools** WhatsApp

### Project's Outline

Kabir 先生と協議を重ね、東アジア国際関係に関する 5 つのテーマ（香港問題、台湾問題、南シナ海問題、アメリカ同盟ネットワーク問題、アジア安全保障問題）と各テーマに関する問いかけ設定し、両学の学生を 5 つのグループに分け、それぞれのグループで討論およびレポート作成に取り組ませた。交流に際しては、原則的に非同期型（メール・チャットなど）とし、希望するグループには同期型（ビデオチャットなど）の使用も許可した。

### Evaluation

COIL 型授業の授業参加度（＝討論およびレポート作成への積極的参加）40%（あとの 60%のうち、宮原ゼミのみで行ったディベートの授業参加度が 40%、期末レポートが 20%）

### Teacher's Comment (Nanzan)

宮原ゼミ生にとっては、東アジア国際問題についてアメリカの学生と意見を交換することで、同じ問題に関する両国国民の認識の違いを知ることができたため、学びの意義は大きかったと考える。

問題点は 2 点あった。1 点目は、Kabir 先生の学生の多くが同期型を強く求めてきたことである。両教員の間では「非同期型を原則とし、文字による交流を中心とする」と

事前に合意し、学生らはメールのほかに「WhatsApp」を自主的に導入してグループチャットを行った。時差 13 時間での多人数による同期型は極めて困難であるため、同期型を求められたグループは困惑し、ミスコミュニケーションが生じた。また、宮原ゼミ生にとっては第二言語を用いた交流のため、思い通りに意思が伝わらないことで互いにストレスを感じたようだった。

2 点目は、グループによって、作業にほとんどたずさわっていない学生が両学ともにいたことである。この原因としては、上記のミスコミュニケーションに加え、討論およびレポート作成の手順や役割分担を教員側が定めず各グループに任せたことも一因と考えられる。教員側の意図は「役割分担を学生同士で決めさせることも教育の一環」ということであり、「根拠のあるデータを列挙していること」「両学の学生が創造的な知見を提示していること」など、レポートの評価基準を事前に学生たちへ提示していた。大半の学生はこれらの意図を汲んで積極的に参加していたが、授業に参加する学生の動機はさまざまだとすることに思いをいたすべきであった。

以上 2 点の問題点については、Kabir 先生に随時相談し、Kabir 先生とともに自らの学生を指導したが、11 月初旬のレポート完成までに必ずしも改善にいたったわけではなかった。

担当教員の総評としては、COIL 型授業の学びの意義は大きく、来年度もぜひ実施したいと考えている。そのうえで、次回実施する際には、①同期型に関する注意喚起を両学の学生に強くおこなうこと、②討論およびレポート作成の手順や役割分担を教員側が明確に設定すること、の 2 点が重要と考える。

### **Teacher's Comment (Queens College)**

It was a pleasure working with Dr. Yoshiaki Miyahara on the COIL project. I thank Nanzan University for facilitating the project and Dr. Miyahara for working with me. The subject of our COIL project was "China's Rise and Regional Security". Students from Queens College collaborated with their counterparts from Nanzan University on topics like political crises in Hong Kong, the China-Taiwan dispute, the South China Sea Dispute, American alliances in Asia, and the Balance of power in Asia. The objective of COIL is to promote intercultural learning experience in an increasingly interconnected world. To this end, I believe the project was successful. My students at Queens College reported their positive experience working on the project: they learned about diverse perspectives and regional



context which are important for having a better understanding of some of the critical regional and international security issues. I look forward to working with Dr. Miyahara again in the future.